

2007年度の診療情報管理室のスタッフは2名（専任1名・医事室長兼務1名）で主に下記の業務を実施した。また、スタッフ不在時に備えた利用案内を作成し、他の職員も利用しやすい環境づくりを心がけた。

1. 退院カルテの収納

2007年度は退院カルテの診療情報管理室への早期収納を目標に掲げていた。しかし退院後病棟でのカルテ処理に時間がかかり、目標の2週間に及ばず3週間程度の期間を要している。また、昨年の機能評価で改善事項とされた、患者ごとの一括収納についてはカルテホルダーを1患者1つに纏めながら継続的に実施している。

2. I.C.サマリーの運用開始

悪性疾患の告知や急変時の対応について、現在カルテだけでは判断できない場合も多い。対応する各スタッフがそれを確認できるようI.C.サマリー（インフォームドコンセントについてのサマリー）を作成することとなった。医局会、診療情報管理会議で検討後運用を開始した。開始にあたっては診療連絡会議、医師のカンファレンス、院内ニュース等で全職員に周知した。2007年度はまだ充分活用されていないので、今後更に院内に周知し作成を勧めていくこととしたい。

3. 外来カルテのサマライズ

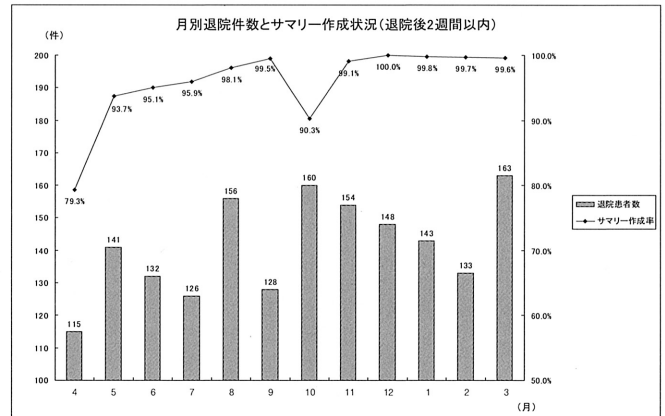
開院から5年経過したので、長く通院している患者さんの外来カルテは分厚くなり取扱いがしづらくなったものがある。目だって厚くなっているカルテを選び、当院の医師が当直の日にサマライズを依頼することとなった。なかにはサマライズ不可のカルテもありなかなか進まず、2007年度中にできたのは37冊であった。

4. 書庫の管理

北側書庫の拡大工事の終了に伴い書庫内に収納していた国立時代の入院カルテ、フィルム等の移動を企画総務の協力を得て行った。その後当院のインアクティブな外来カルテとフィルムの移動を行った。また、他部署の諸伝票類についても収納が必要な資料の調査を行い、その後部署ごとに配置を決めて移動を依頼した。

5. サマリー作成率

毎月の医局会でサマリー作成率及び、医師毎の未作成数を公表している。各医師の協力を得て退院後2週間でのサマリー作成率は、別表のとおり2007年度も95%程度を継続することができた。



6. 退院患者疾病統計

年度別 退院患者疾病統計比較

ICD 大分類		2006	2007
1	感染症および寄生虫症	77	72
2	新生物	213	214
3	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	15	18
4	内分泌栄養および代謝疾患	55	55
5	精神および行動の障害	26	9
6	神経系の疾患	35	37
8	耳および乳様突起の疾患	1	11
9	循環器系の疾患	270	283
10	呼吸器系の疾患	205	186
11	消化器系の疾患	257	294
12	皮膚および皮下組織の疾患	16	18
13	筋骨格系および結合組織の疾患	39	52
14	尿路器系の疾患	114	76
18	症状徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	127	78
19	損傷中毒およびその他の外因の影響	215	262
21	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	41	34
合計		1,706	1,699

疾病分類 大分類比率

